

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	平成26年度第1回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日時	平成26年6月26日(木) 18:00~19:30		
場所	小野田保健センター		
出席者	小野田医師会	白澤宏幸	(会長)
	山陽小野田市社会福祉協議会	沖野浩	(副会長)
	厚狭郡医師会	中根比呂志	(委員)
	小野田歯科医師会	多原康成	(委員)
	厚狭歯科医師会	嶋田修士	(委員)
	山陽小野田薬剤師会	福田雅子	(委員)
	山陽小野田市ふるさとづくり協議会	杉本保喜	(委員)
	山陽小野田市自治会連合会	藤田正人	(委員)
	山陽小野田市老人クラブ連合会	笹尾新太郎	(委員)
	山陽小野田市連合女性会	井上幸子	(委員)
	山陽小野田市小・中学校PTA連合会	石田康正	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	吉田由美子	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子	(委員)
	山口県栄養士会宇部地域専門部会	河村典子	(委員)
	山口県歯科衛生士会小野田支部	新藤悦子	(委員)
	一般公募	曾瀬護	(委員)
	一般公募	原田静江	(委員)
(出席者数 17人)			
欠席者	山口宇部農業協同組合	笹木伸子	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	中村由美子	(委員)
(欠席者数 2人)			
オブザーバ	山口県宇部健康福祉センター	酒井恵子	
事務局	健康福祉部長	河合久雄	健康増進課長 山根愛子
	健康増進課課長補佐	木本順二	健康増進課課長補佐 河野静恵
	成人保健係主査	石井尚子	健康企画係係長 大海弘美
	健康企画係主事	竹森和貴	

1. あいさつ	健康福祉部長あいさつ
2. 新委員紹介	
3. 会長選出 会 長	委員の互選により会長を選出 いきいきとした山陽小野田市を作っていくため、みんなで知恵を出し合っていきたい。
4. 議 事	(1) 平成26年度山陽小野田市保健事業概要(以下「保健事業概要」という。)について
事 務 局	資料1(保健事業概要)の説明
議 長	意見、質問等ないか。
委 員	市ホームページに掲載されている妊娠の届出(母子健康手帳の交付)の頁に「妊娠届が無い場合は母子健康手帳の交付ができない場合があります。」とあるが、実例があるか。
事 務 局	実例は無い。市の妊娠届出は母子健康手帳交付申請書と妊婦健康診査受診補助券申請書を兼ねている。このため、母子健康手帳の交付には、妊娠届出(産婦人科医の承認を得たという証明)の提出が必要である。
委 員	何を市民に伝えるためにこの文章を掲載しているのか。
事 務 局	「妊婦に病院へきちんと行ってほしい」という思いで掲載している。
委 員	平成25年度妊娠届出時妊婦の年齢別妊娠週数別内訳では「35歳から39歳」の年代で出生後の妊娠の届出があるが、どのように対応したか。
事 務 局	出生と同時に産婦人科医に妊娠届の記入を依頼し、産婦から妊娠届出があったため、母子健康手帳を交付した。
委 員	保健事業概要11頁の母子保健推進員の育成・支援研修会の3回目の内容に虐待が入っているが、市の虐待に関する現状はどうか。
事 務 局	市の虐待数については、要保護児童対策協議会の報告によると、平成25年度は減少している。 居住実態調査(平成26年5月1日現在を調査、11月に再調査と結果報告)では、居住不明児(18歳以下)は合計21名だった。また、居住不明児とは、健診や予防接種を受けず、訪問しても会えなかった児童のことである。
委 員	平成25年度乳幼児健康診査3歳6か月児の要精査の件数が他の年齢と比べて多いのは何か理由があるのか。
事 務 局	3歳6か月児の健康診査では視覚と聴覚に関するアンケート調査及び尿検査を実施するためだと考えられる。
委 員	乳幼児健康診査の受診率は他の市町と比べてどうか。
事 務 局	他の市町や県の数値と比較して、標準といえる。
委 員	保健事業概要5頁の平成25年度健康教育対象別実施状況で、園児対象の実施回数が1回、参加人数40人とある。これは1つの園に対して実施したということだと思うが、PRはどのように実施したのか。
事 務 局	以前、園の方から市へ要望があり、それ以降は毎年、市から働きかけ

委員	を している。
事務局	今後は、この園以外にも PR していくか。 PR していきたい。また、現在でも子育てネットワーク会議等で PR している。
委員	平成 25 年度は全国での自殺件数が減少したが、市ではどうか。
事務局	市は 2 年前まで自殺件数が多く、県内でトップになることがあった。国のデータによれば、市においても最近は減少傾向にある。しかし、自殺件数は依然として多いので、今後も自殺対策に取り組んでいく。
委員	感染症予防事業に関連しての質問だが、ヘルペスは患者数が多く、完治も難しいと聞くが実際はどうか。
委員	ヘルペス用の薬があるが、完治はなかなか難しい。
事務局	がん検診の無料クーポンはいつから実施しているのか。 子宮頸がん、乳がん検診については平成 21 年からで、大腸がん検診は平成 23 年からである。
委員	がん検診の無料クーポンの効果はどうか。
事務局	子宮頸がん検診の無料クーポンは 20 歳から 40 歳までの女性に 5 歳刻みで発行していた。無料クーポンの効果としては、20 歳の受診率の向上があり、無料クーポンがきっかけで受診する方が増えたと考えている。
委員	肺がん検診の受診者数が他の検診と比べて非常に多いが何故か。
事務局	市では肺がん検診を集団検診のみでなく、個別検診でも実施していることや、肺がん検診は、胸のレントゲンを撮るだけで食事制限や便の採取等をせずに受診できることが受診者数を増加させている理由と考えている。
委員	保健事業概要 20 頁にある女性の健康診査の受診率を上げていくことが重要だと思う。この若い世代の健診を充実させてほしい。
事務局	若い世代に対して、健診を利用した健康管理の重要性を意識付けすることを今後もしっかり実施する。
委員	成人の肺炎球菌ワクチンの定期予防接種については、65 歳以上が対象で、その後 5 歳刻みでの実施であるが、これでは 65 歳の方は定期予防接種を受けることが出来るが、66 歳の方は 70 歳になるまで受けることが出来ず不公平だと感じるが、これは国の方針か。
事務局	国の方針である。
委員	市民のなかには、この対象年齢等を不満に感じる方もいると思うので市としてしっかり説明してほしい。
委員	山陽小野田市急患診療所平日夜間(内科)は患者数が少ないため、市としてもさらに PR して欲しい。
事務局	(2) SOS 山陽小野田市健康づくり計画について(報告)
議長	山陽小野田市健康づくり計画の改訂版について報告 意見、質問等ないか。 (意見、質問等なし)

<p>事務局 議長 委員 事務局 委員 議長 委員</p>	<p>(3) がん検診受診率向上の取組みについて 資料2 (がん検診受診率向上の取組みについて)の説明 意見、質問等ないか チラシ(別紙2、3-1、3-2)はどのように配布するのか。 それぞれ、平成26年度の対象者全員に個別で郵送する。 子宮頸がん検診のキャラクター「きゅうちゃん」をもっと大きくチラシの表など目立つ場所に移動させた方が良い。 がん検診について、平成26年度から平成28年度の3か年については受診率ではなく受診者数に注目し、受診者数を増やす取組みを実施していくということだが、意見、質問等ないか。</p>
<p>委員</p>	<p>市の国民健康保険新規加入者への健診の受診勧奨は大変有効だと感じる。定年を向かえ、社会保険から国民健康保険に変わる方は、やはり、不安だと思う。このような方にとって、このチラシ(別紙2)は大変効果的である。 がん検診のキャラクターをさらにPRしていけば、多くの方に健診をより身近に感じてもらえると思う。 2人に1人ががんになる時代である。ぜひ、がん検診の受診率、受診者数向上に取り組んでほしい。 他に意見、質問等ないか。 (意見、質問等なし)</p>
<p>事務局 議長</p>	<p>(4) その他 第5回 SOS 健康フェスタについて 第5回 SOS 健康フェスタは平成26年11月16日(日曜日)に開催を予定しており、会場は市民館全館を使用する。今年度のテーマは「もっとつながりを」である。 次回開催予定 10月9日(木曜日) 18時00分～ 小野田保健センター</p>